



## クイック スタート ガイド



# Cisco Prime Collaboration 9.0 クイック スタート ガイド

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 ([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

- 1 はじめに
- 2 製品概要
- 3 Prime Collaboration のライセンス
- 4 インストール要件
- 5 Prime Collaboration のインストール
- 6 使用する前に
- 7 Prime Collaboration のアンインストール
- 8 関連資料
- 9 マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

# 1 はじめに

このガイドでは、仮想サーバに Cisco Prime Collaboration (Prime Collaboration) をインストールする方法について説明します。

このマニュアルは、IP テレフォニー システムおよび Cisco TelePresence System のモニタリング、メンテナンス、および設定を行う管理者を対象としています。また、Cisco TelePresence System および音声アプリケーションの問題をトラブルシューティングする管理者も対象に含まれます。これらの管理者は、次のアプリケーションに精通する必要があります。

- 管理：Cisco TelePresence Manager (CTS-Manager) および Cisco TelePresence Management System (Cisco TMS)。
- コールおよびセッション制御：Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM)、Cisco Unified CM Express、および Cisco TelePresence Video Communication Server (Cisco VCS)。
- 会議：Cisco TelePresence Multipoint Switch (CTMS)、Cisco TelePresence Server (TS)、Multipoint Control Units (MCU)、および Cisco TelePresence Media Service Engine (MSE)。

管理者は、仮想化の概念と仮想化環境についても理解しておく必要があります。



**(注)** すでに UCMS および Prime Collaboration Manager (Prime CM) を使用している場合は、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Migration Guide](#)』を参照して、Prime Collaboration に移行します。

## 新機能および変更された機能に関する情報

次の表では、『Cisco Prime Collaboration 9.0 クイック スタート ガイド』の初期リリース以降に追加または変更された情報について説明します。

日付	リビジョン	参照先
2013年5月23日	Prime Collaboration Provisioning の新しいライセンス ファイルの登録手順を更新しました。	「 <a href="#">Prime Collaboration Provisioning を使用する前に</a> 」(P.19)
2013年2月4日	ソフトウェア イメージのファイル名を更新しました。	「 <a href="#">Prime Collaboration のダウンロード</a> 」(P.9)
2013年6月18日	クライアント マシン要件の表を更新しました	「 <a href="#">システム要件</a> 」(P.7)

# 2 製品概要

Cisco Prime Collaboration では、基礎となるトランスポート インフラストラクチャを含む Cisco Collaboration システムの診断付きで、包括的な音声およびビデオのネットワーク モニタリングが可能です。

Prime Collaboration は統合アプリケーションで、ビデオの導入を音声と分けて管理する必要がなくなります。これは、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の2つの異なるアプリケーションとして提供されており、個別の仮想マシンにインストールされます。

この統合アプリケーションは、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の利点を組み合わせます。

Prime Collaboration Assurance アプリケーションでは次のことが可能です。

- Cisco Collaboration アプリケーションのエンドツーエンド サービス モニタリング。
- Cisco TelePresence システムと電話機に対するリアルタイムのサービス トラブルシューティングおよび診断。
- Cisco メディアネットを使用した、ビデオ サービスの準備検査。
- Cisco IP サービス レベル契約 (IP SLA) と Video SLA Assessment Agent (VSAA) を使用した診断テスト。
- 音声およびビデオ システムのサービス レベル レポートおよびインベントリ レポート。

Prime Collaboration Provisioning アプリケーションでは次のことが可能です。

- 加入者（個々の電話、ボイスメール、またはその他のサービスの所有者）のために注文される標準サービス（電話機、回線、ボイスメールなど）。
- 一貫した方法で Cisco Unified Communications の音声インフラストラクチャを自動設定する、設定テンプレート。
- 既存の Cisco Unified Communications ネットワークへの Provisioning アプリケーションの簡単な追加。
- 加入者とユーザを管理するための、簡単なポリシー方式の 2 Day プロビジョニング インターフェイス。
- エンドユーザが回線を設定し、サービスを管理し、電話機のオプションをすばやく簡単に設定できる、セルフケア機能。

これらのアプリケーションは、次のいずれかの方法で実行できます。

- シングルサインオンを使用する統合アプリケーション。このモードは、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方の機能に対する起動ポイントを持つ、統合ユーザ インターフェイスを提供します。
- 個別ログインを使用するスタンドアロンアプリケーション。このモードは、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の機能に個別のユーザ インターフェイスを提供します。

Prime Collaboration 機能の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Administration Guide](#)』の「Introduction to Prime Collaboration」の章を参照してください。

## 3 Prime Collaboration のライセンス

Prime Collaboration は、ホスト サーバの MAC に対して保護される、ライセンス供与されたソフトウェア製品です。Prime Collaboration のライセンスは Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の機能およびエンドポイント数を保護し、イネーブルにします。ライセンスは、必要なコラボレーションの管理オプション（Assurance または Provisioning）、エンドポイント タイプ（電話機または Cisco TelePresence）、およびこれらのエンドポイント数に基づいて注文します。

### ソフトウェア イメージ、PAK、およびライセンス ファイルへのアクセス

Prime Collaboration 用の製品番号は、R-xxx および L-xxx です。これらは、注文の出荷宛先電子メールアドレスに送信される電子メールに記載されており、シスコの eDelivery サイトにアクセスしてソフトウェア イメージをダウンロードし、注文した製品認証キー（PAK）をライセンス設定する方法を示します。ソフトウェア イメージは、ホスト サーバにダウンロードおよびインストールされます。ESD のサイトからのライセンス PAK ID を使用すると、シスコのライセンシング サイトにアクセスして、サーバの MAC アドレスをその時にホスト サーバにインストールされているライセンス キーに関連付けることができます。これらのライセンス キーは、実稼働環境で使用するよう Prime Collaboration ソフトウェアをアクティブにします。また、これらのライセンス キーは、トライアルインストールを実稼働環境に変換します。



**(注)** PAK は、シスコのソフトウェア サイトへのログインに使用され、MAC アドレスが関連付けられています。PAK は電子メールで送信され、ダウンロードできるようにライセンス ファイルが作成されます。Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning のそれぞれに、個別のライセンス ファイルが必要なことに注意してください。ライセンス ファイルをダウンロードしたら、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のサーバに個別に登録します。

#### Prime Collaboration Assurance のライセンス

Prime Collaboration Assurance では、エンドポイント タイプおよび量に基づいてライセンスが提供されます。エンドポイントのタイプは必要なライセンスを決定し、エンドポイント数はネットワークを管理するために購入する必要があるライセンスの階層と数を決定します。Prime Collaboration Assurance のライセンスを追加する方法については、『[Cisco Prime Collaboration Administration Guide](#)』を参照してください。

次のライセンス カテゴリがサポートされます。

- ハイエンド、シングルコーデック エンドポイント
- ハイエンド、マルチコーデック エンドポイント
- ミッドレンジ エンドポイント

- マス エンドポイント

次の数のエンドポイントを評価モードで管理できます。

- 50 個のハイエンド、シングルコーデック エンドポイント
- 50 個のハイエンド、マルチコーデック エンドポイント
- 500 個のミッドレンジ エンドポイント
- 10000 個のマス エンドポイント

表 1 に、ライセンス カテゴリとエンドポイント タイプ間のマッピングを示します。

**表 1**                    **ライセンス カテゴリとエンドポイント タイプ**

ライセンス カテゴリ	エンドポイント タイプ
ハイエンド、マルチコーデック エンドポイント	Cisco TelePresence System 3000
	Cisco TelePresence System 3010
	Cisco TelePresence System 3200
	Cisco TelePresence System 3210
	Cisco TelePresence System TX9000
	Cisco TelePresence System TX9200
ハイエンド、シングルコーデック エンドポイント	Cisco TelePresence System 1000
	Cisco TelePresence System 1100
	Cisco TelePresence System 1300
	Cisco TelePresence System 1400
	Cisco Profile 42-C20
	Cisco Profile 42-C60
	Cisco Profile 52 デュアル
	Cisco Profile 52
	Cisco Profile 65
	Cisco Profile 65 デュアル
	Cisco Profile 52-6000MXP

表 1 ライセンス カテゴリとエンドポイント タイプ (続き)

ライセンス カテゴリ	エンドポイント タイプ
ミッドレンジ エンドポイント	Cisco Codec EX60
	Cisco Codec EX90
	Cisco Codec C90
	Cisco Codec C60
	Cisco Codec C40
	Cisco Codec C20
	Cisco TelePresence System 150 MXP
	Cisco TelePresence System 1000 MXP
	Cisco Tandberg 1500 MXP
	Cisco TelePresence System 1700 MXP
	Cisco TelePresence System Codec 3000 MXP
	Cisco TelePresence System Codec 6000 MXP
	Cisco TelePresence System MX200
	Cisco TelePresence System MX300
	Cisco TelePresence System 500
Cisco TelePresence SX20 クイック セット	
Polycom	
マス エンドポイント	Cisco IP Phone
	Cisco Cius
	Cisco Jabber Video for TelePresence (Movi)
	Cisco IP Video Phone E20

### Prime Collaboration Provisioning のライセンス

Prime Collaboration Provisioning では、次のタイプのライセンスを使用できます。

- Cisco Prime Unified Provisioning イメージ ライセンス (実稼働ネットワークでアクティブにする必要があります)
- Prime Collaboration Provisioning スケール ライセンス
- Prime Collaboration Provisioning アプリケーション プログラム インターフェイス機能ライセンス (任意)

評価モードで最大 10000 台の電話機を管理できます。

Prime Collaboration Provisioning のライセンスを追加する方法については、『[Cisco Prime Collaboration Provisioning Guide](#)』を参照してください。

ただし、追加のスケール ライセンスは次の単位で購入できます。

- 最大 500 台の電話機
- 最大 1,000 台の電話機
- 最大 2,000 台の電話機
- 最大 5,000 台の電話機
- 最大 10,000 台の電話機
- 最大 20,000 台の電話機
- 最大 30,000 台の電話機
- 最大 60,000 台の電話機



(注) スケール ライセンスは累積的です。ライセンスを組み合わせ、サポートされる電話機の台数を増やすことができません。

## 4 インストール要件

表 2 にインストール要件を示します。Prime Collaboration をインストールする前にチェックリストを確認します。

表 2 インストール要件

要件	説明
サーバ数	Prime Collaboration Assurance アプリケーションおよび Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは、異なる仮想マシンにインストールする必要があります。 インストール モードおよび必要なサーバ数の詳細については、「 <a href="#">サーバ数</a> 」(P.6) を参照してください。
仮想化の要件	Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のイメージは、OVA ファイル形式です。 必要な VMware 環境に関する詳細については、「 <a href="#">VMware 要件</a> 」(P.9) を参照してください。
システム要件	システム要件は管理するエンドポイントの数によって異なります。「 <a href="#">システム要件</a> 」(P.7) を参照してください。
ポートの要件	Prime Collaboration は、他のプロセスとデバイスとの通信に複数のプロトコルを使用します。Prime Collaboration が通信するために必要なポートが使用可能であることを確認する必要があります。詳細については、『 <a href="#">Required Ports for Prime Collaboration</a> 』を参照してください。
デバイス設定 (CTS-Manager、TMS、CUCM、VCS、ビデオ エンドポイント、MCU など)	音声およびビデオ エンドポイントとインフラストラクチャ デバイスには、Prime Collaboration サーバが通信できるように特定の設定が必要です。詳細については、『 <a href="#">Setting up Devices for Prime Collaboration</a> 』を参照してください。
イメージのダウンロード	Prime Collaboration イメージは、eDelivery サイトと Cisco.com のサポート ソフトウェアのダウンロード サイトで入手できます。eDelivery または ESW 契約のオーダーが必要です。
ユーザアカウントおよびインストールプロンプト	インストール時に次のことを行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>globaladmin、root ユーザ、および CLI ユーザ アカウントが作成されます。これらのアカウントのパスワードを指定する必要があります。 「<a href="#">ユーザ アカウント</a>」(P.10)、「<a href="#">root ユーザと globaladmin のパスワードの規則</a>」(P.11)、および「<a href="#">CLI 管理者のパスワードの規則</a>」(P.11) を参照してください。</li> <li>仮想マシンの詳細を指定する必要があります。 「<a href="#">インストール プロンプト</a>」(P.11) を参照してください。</li> </ul>

### サーバ数

Prime Collaboration のインストールに必要な仮想マシンの数は次のとおりです。

- Prime Collaboration Assurance をインストールする 1 つの仮想マシン。
- Prime Collaboration Provisioning をインストールする追加の仮想マシン。必要な仮想マシンの数は、管理する電話機の数によって異なります。



- 電話機が 10,000 台以下（小中規模導入モデル）の場合、データベースとアプリケーションの両方をインストールする 1 つの仮想マシンが必要です。小中規模導入モデル用の Prime Collaboration Provisioning の設定の詳細については、「[設定が簡単](#)」(P.14) を参照してください。
- 電話機が 10,000 台を超える（大規模および非常に大規模な導入モデル）場合、データベースとアプリケーションを個別にインストールするために 2 つの仮想マシンが必要です。大規模および非常に大規模な導入モデル用の Prime Collaboration Provisioning の設定の詳細については、「[高度な設定](#)」(P.15) を参照してください。

インストールする前に、上で指定された各仮想マシンの IP アドレスを確認します。

## システム要件

Prime Collaboration は、ESXi 4.1 または 5.0 がインストールされた任意の VMware 認定ハードウェアで動作します。大規模および非常に大規模な導入モデルでは、ESXi 5.0 が必要です。



- (注)
- VMware 認定の Cisco Unified Computing System (UCS) に Prime Collaboration をインストールし、実行することを推奨します。
  - Prime Collaboration は 2 番目の NIC（ネットワーク アダプタ）を設定できます。2 番目の NIC の設定方法については、『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』を参照してください。

OVA は、仮想マシンの CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク リソースなどの設定を定義します。

## Prime Collaboration Assurance に関する仮想マシン要件

表 3 は、Prime Collaboration で管理されているエンドポイントの数に基づいた、Prime Collaboration Assurance アプリケーションの仮想マシン要件を示しています。

表 3 Prime Collaboration Assurance に関する仮想マシン要件

Prime Collaboration で管理されるエンドポイント	CPU の数	CPU 予約	RAM	メモリ予約	NIC	ディスク容量
最大 1000 個のエンドポイント (小)	4	3.98 GHz	8 GB	8 GB	1 GB	150 GB
最大 10,000 個のエンドポイント (中)	8	3.98 GHz	16 GB	16 GB	1 GB	200 GB
最大 100,000 個のエンドポイント (大)	12	20 GHz	24 GB	24 GB	1 GB	500 GB
最大 150,000 個のエンドポイント (非常に大きい)	18	30 GHz	32 GB	32 GB	1 GB	750 GB



- (注) Prime Collaboration のパフォーマンスを改善するために、サーバのハイパースレディングを（BIOS レベルで）ディセーブルにする必要があります。これは、ハイパースレディングがイネーブルになっている場合に発生する可能性のある CPU 関連の問題を回避するためです。ハイパースレディングのディセーブル化については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

## Provisioning に関する仮想マシン要件

表 4 は、Prime Collaboration で管理されているエンドポイントの数に基づいた、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの仮想マシン要件を示しています。

表 4 Prime Collaboration Provisioning に関する仮想マシン要件

Prime Collaboration で管理されるエンドポイント	CPU の数	CPU 予約	RAM	メモリ予約	NIC	ディスク容量
最大 1000 個のエンドポイント (小)	1	2 GHz	2 GB	2 GB	1 GB	90 GB
最大 10,000 個のエンドポイント (中)	4	3.98 GHz	8 GB	8 GB	1 GB	120 GB
最大 100,000 個のエンドポイント (アプリケーション サーバ) (大)	8	3.98 GHz	16 GB	16 GB	1 GB	120 GB
最大 100,000 個のエンドポイント (データベース サーバ) (大)	8	3.98 GHz	16 GB	16 GB	1 GB	120 GB
最大 150,000 個のエンドポイント (アプリケーション サーバ) (非常に大きい)	8	3.98 GHz	16 GB	16 GB	1 GB	150 GB
最大 150,000 個のエンドポイント (データベース サーバ) (非常に大きい)	8	3.98 GHz	16 GB	16 GB	1 GB	150 GB



(注) データストアでの読み取り/書き込み遅延が大きい場合、Prime Collaboration Provisioning のパフォーマンスが低下します。データストアでの平均読み取り/書き込み遅延が 2 ミリ秒未満であることを確認してください。

#### クライアント マシン要件

表 5 に、Prime Collaboration を効果的に使用するためのクライアント マシン要件を示します。

表 5 クライアント マシン要件

パラメータ	要件
ディスプレイ解像度	1440 x 900
サポートされるブラウザ	<p>次のブラウザがサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mozilla Firefox - ESR 10.0.x および 15。ESR の詳細については、<a href="http://www.mozilla.org/en-US/firefox/organizations/faq/">http://www.mozilla.org/en-US/firefox/organizations/faq/</a> を参照してください。</li> <li>• Windows Internet Explorer 8.0 および 9.0</li> </ul> <p>Prime Collaboration は、自己署名証明書 (HTTPS) を提供します。Prime Collaboration クライアントのアクセスを可能にするには、Internet Explorer でセキュリティを中または低に設定する必要があります。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブラウザで cookie を有効にしていることを確認します。</li> <li>• ブラウザで言語として [English (United States) [en-us]] を設定していることを確認します。</li> <li>• Prime Collaboration は複数のインスタンスでポップアップ ダイアログボックスを使用します。ポップアップ ブロックをインストール済みの場合は、ディセーブルにしておく必要があります。</li> </ul>



表 5 クライアントマシン要件 (続き)

パラメータ	要件
Adobe Flash Player	Prime Collaboration 機能が適切に動作するようにするためには、クライアントマシンに Adobe Flash Player をインストールする必要があります。Adobe Web サイトから Adobe Flash Player バージョン 10.x 以降をダウンロードし、インストールすることを推奨します。
環境	<p>クライアントは、次のように Cisco Prime Collaboration にアクセスできる必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイアウォールの外側から：クライアント アクセスを設定する方法については、ファイアウォールのマニュアルを参照してください。</li> <li>バーチャルプライベートネットワーク (VPN) 経由：VPN トンネルでクライアントと VPN ルータまたは同様のデバイスを接続する必要があります。 『<a href="#">Required Ports for Prime Collaboration</a>』を参照してください。</li> </ul>

## VMware 要件

VMware 環境が次の要件を満たしていることを確認してください。

- OVA が、vSphere クライアントのインストール先と同じマシンにダウンロードされ、保存されている。

Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning それぞれのために、2 つの OVA をダウンロードする必要があります。



(注) Prime Collaboration Provisioning がスタンドアロンの場合、電話機が 10,000 台より多いときは、OVA をダウンロードして、データベース用とアプリケーションのインストール用として、2 つの仮想マシンに個別に設定する必要があります。

- VMware ESXi が ESXi ホストにインストールされ、設定されている。ホストマシンのセットアップと設定については、VMware のマニュアルを参照してください。



(注) VMware vSphere クライアントは Windows ベースです。したがって、このクライアントは Windows PC からダウンロードし、インストールする必要があります。

VMware vSphere Client をインストールしたら、そのクライアントを実行して、仮想ホストのホスト名または IP アドレス、ルートログイン ID、および設定したパスワードを使用して仮想ホストにログインできます。vCenter を介して管理する場合は、ホストを vCenter に追加できます。詳細は、VMware のマニュアルを参照してください。

- VMware ESXi サーバのホスト名が、DNS サーバに設定されている。
- VMware ESXi サーバが、NTP サーバと同期している。

## Prime Collaboration のダウンロード

Prime Collaboration イメージは、eDelivery サイトと Cisco.com のサポート ソフトウェアのダウンロードサイトで入手できます。eDelivery または ESW 契約のオーダーが必要です。

Prime Collaboration Assurance だけをインストールする必要がある場合は、管理するエンドポイントの数に基づいて Prime Collaboration Assurance OVA をダウンロードします。

Prime Collaboration Assurance アプリケーションは次のタイプの導入モデルに設定できます。

- 小規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Assurance OVA** : <cpc-assurance-9.0.0-24376-small.ova> エンドポイント数が最大 1000 個の場合 (100 未満の TelePresence システムを含む)

- 中規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Assurance OVA** : <cpc-assurance-9.0.0-24376-medium.ova> エンドポイント数が最大 10,000 個の場合 (1000 未満の TelePresence システムを含む)
- 大規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Assurance OVA** : <cpc-assurance-9.0.0-24376-large.ova> エンドポイント数が最大 100,000 個の場合 (10000 未満の TelePresence システムを含む)
- 非常に大規模な導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Assurance OVA** : <cpc-assurance-9.0.0-24376-verylarge.ova> エンドポイント数が最大 150,000 個の場合 (10000 未満の TelePresence システムを含む)



**(注)** より多くのエンドポイントを管理するために導入モデルをアップグレードするには、調整スクリプトを実行する必要があります。Prime Collaboration Assurance の調整スクリプトの詳細については、『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』の「Upgrading the Deployment Model」を参照してください。

Prime Collaboration Provisioning だけをインストールする必要がある場合は、管理するエンドポイントの数に基づいて Prime Collaboration Provisioning OVA をダウンロードします。

Prime Collaboration Provisioning アプリケーションは次のタイプの導入モデルに設定できます。

- 小規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning OVA** : <cpc-provisioning-9.0.0-21342-small.ova> 電話機が最大 1000 台の場合
- 中規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning OVA** : <cpc-provisioning-9.0.0-21342-medium.ova> 電話機が最大 10,000 台の場合
- 大規模導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning OVA** : <cpc-provisioning-9.0.0-21342-large.ova> 電話機が最大 100,000 台の場合
- 非常に大規模な導入用の **Cisco Prime Collaboration 9.0 Provisioning OVA** : <cpc-provisioning-9.0.0-21342-verylarge.ova> 電話機が最大 150,000 台の場合

これらのファイルをダウンロードするには、有効な Cisco.com ユーザ アカウントが必要です。

ネットワーク内のデバイスの Prime Collaboration 向け設定に関する情報については、『[Setting up Devices for Prime Collaboration](#)』を参照してください。

## ユーザ アカウント

Prime Collaboration では、さまざまなインスタンスに異なるパスワードを指定する必要があります。このセクションは、ログインクレデンシャルを要求する複数のシナリオで適切なパスワードを指定できるように設計されています (統合アプリケーションとスタンドアロンの Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning の両方のアプリケーションに適用されます)。

- globaladmin : Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning UI の両方にアクセスできるスーパーユーザです。
- globaladmin パスワード : 仮想アプライアンスをスタンドアロンまたは統合アプリケーションのいずれかのために設定するときに、このパスワードを指定します。「[Prime Collaboration Assurance の仮想アプライアンスの設定](#)」(P.13) および「[Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの設定](#)」(P.14) を参照してください。このパスワードは、UI にログインする際に指定する必要があります (「[root ユーザと globaladmin のパスワードの規則](#)」(P.11) を参照)。

Prime Collaboration Provisioning では、このパスワードは postgres admin のパスワードで同期されます (バックアップおよび復元操作を実行するため)。このとき、パスワードはデータベースと `/opt/cupm/sep/dfc.properties` ファイルで更新されます。dfc.properties ファイルにアクセスするには、root ユーザとしてログインする必要があります。



**(注)** Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方をインストールする場合は、インストール中に、両方のアプリケーションで同じパスワードを指定してください。

- CLI 管理ユーザ名 : ユーザ名はデフォルトで admin です。ただし、ユーザ名を選択して指定できます。
- CLI 管理者パスワード : SSH CLI 管理者のパスワードを指定します。このパスワードは、CLI にログインしてアプリケーション ステータスをチェックし、バックアップと復元を実行するために使用します (「[CLI 管理者のパスワードの規則](#)」(P.11) を参照)。

CLI は SSH を介してのみサポートされます。telnet はサポートされません。ポート 26 とポート 22 を使用して SSH を介して、Provisioning にログインできます。

- root ユーザ：CLI ですべての特権を持つスーパーユーザです。
- root パスワード：root ユーザのパスワードを指定します（「root ユーザと globaladmin のパスワードの規則」(P.11) を参照）。

### root ユーザと globaladmin のパスワードの規則

- 小文字、大文字、数字、特殊文字のそれぞれを少なくとも 1 つ含める必要があります。
- パスワードには同じ文字を 4 回以上繰り返すことはできません。
- 非 ASCII 文字を含めることはできません。
- **cisco** または **ocsic** は使用できません。また、ここで使用されている文字の大文字と小文字を変えたものや、**1** と **!**、**i** と **|**、**o** と **0**、**s** と **\$** を置き換えたものは使用できません。
- ユーザ名と同じにしたり、ユーザ名を逆から入力したパスワードは使用できません。
- 長さは 8 ～ 80 文字にする必要があります。

### CLI 管理者のパスワードの規則

- パスワードの最小長は 6 文字である必要があります。
- 小文字、大文字、数字のそれぞれを少なくとも 1 つ含める必要があります。
- ユーザ名自体と同じにすることはできません。



#### 注意

root パスワードは取得できないため、書き留めておくことを推奨します。



- (注) root パスワードを変更するには、root ユーザとしてログインして「password」コマンドを実行します。新しいパスワードを求めるプロンプトが表示されます。

### インストール プロンプト

仮想アプライアンスを設定中にコンソール プロンプトで指定する必要があるため、次のパラメータの値を（事前に）確認しておくことを推奨します。

- [IP Address]：仮想アプライアンスの IP アドレス
- [IP default netmask]：IP アドレスのデフォルト サブネット マスク
- [IP default gateway]：デフォルト ゲートウェイの IP アドレス
- [Default DNS domain]：デフォルトのドメイン名
- [Primary nameserver]：プライマリ ネーム サーバ。ネーム サーバを追加できます。複数のネーム サーバを設定するには、**y** を入力します。
- [Primary NTP server[time.nist.gov]]：プライマリ NTP サーバ  
セカンダリ NTP サーバを入力するには、次のプロンプトで **y** と入力します。



- (注) ターシャリ NTP サーバを設定するには、セカンダリ NTP サーバを指定してから、次のプロンプトで **y** と入力します。Prime Collaboration 9.0 は、3 台の NTP サーバをサポートします。

- [Timezone]：UI に表示されるタイムスタンプはサーバ時刻です。デフォルトでは、設定されたタイムゾーンは UTC です。サポートされている時間帯の一覧については、『Supported Timezones for Prime Collaboration』を参照してください。統合モードでは、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のサーバで同じ時間帯を使用する必要があります。

- [Username] : CLI 管理ユーザ名です。ユーザ名はデフォルトで `admin` です。ただし、ユーザ名を選択して指定できます。
- [Password] : CLI 管理者パスワードです。このパスワードは、CLI にログインしてアプリケーション ステータスをチェックし、バックアップと復元を実行するために使用されます。
- [Root user] : CLI ですべての特権を持つスーパーユーザです。
- [Root password] : root ユーザのパスワードを指定します。
- [globaladmin] : Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning UI の両方にアクセスできるスーパーユーザです。
- [globaladmin password] : globaladmin のパスワードを指定します。

## 5 Prime Collaboration のインストール

Prime Collaboration は、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の 2 つの個別のインストール可能な OVA で提供されます。

インストール時に、スタンドアロン モードでアプリケーションをインストールする必要があります。

ただし、Prime Collaboration は、Prime Collaboration Assurance のユーザ インターフェイスを使用して、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning のサーバを統合するためのオプションを提供します。Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの統合の詳細については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Administration Guide](#)』の「[Integrating Prime Collaboration Servers](#)」の章を参照してください。

Prime Collaboration のインストールは、次の作業で構成されます。

- 「[Prime Collaboration Assurance のインストール](#)」 (P.12)
- 「[Prime Collaboration Provisioning のインストール](#)」 (P.13)

## Prime Collaboration Assurance のインストール

Prime Collaboration Assurance のインストールには、「[Prime Collaboration Assurance アプリケーションの導入](#)」 (P.12) および「[Prime Collaboration Assurance の仮想アプライアンスの設定](#)」 (P.13) が含まれます。

### Prime Collaboration Assurance アプリケーションの導入

「[インストール要件](#)」 (P.6) および「[システム要件](#)」 (P.7) に記載された要件が満たされていることを確認します。

Prime Collaboration Assurance OVA を導入するには、次のように行います。

- 
- ステップ 1** VMware vSphere クライアントを起動し、[File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
  - ステップ 2** [Deploy OVF Template] ウィンドウで、[Deploy from file] をクリックします。
  - ステップ 3** [Browse] をクリックし、Prime Collaboration Assurance OVA (`cpc-assurance-9.0.0-24376-<deployment model>.ova`) ファイルを保存した場所に移動します。
  - ステップ 4** [Next] をクリックします。
  - ステップ 5** [OVF Template Details] ウィンドウで、製品名、バージョン、サイズなどを含む OVA ファイルの詳細を確認し、[Next] をクリックします。
  - ステップ 6** [Accept] をクリックして、エンドユーザライセンス契約書を受け入れます。[Next] をクリックします。
  - ステップ 7** [Name and Location] ウィンドウで、導入するテンプレートの名前と場所を指定します。名前はインベントリ フォルダ内で一意である必要があり、最大 80 文字で構成できます。[Next] をクリックします。
  - ステップ 8** [Disk Format] ウィンドウで、仮想ディスクに保存するために [Thick provisioned format] を選択し、[Next] をクリックします。

- ステップ 9** [Ready to Complete] ウィンドウのオプションを確認してから、[Finish] をクリックして導入を開始します。  
導入が完了するまでに約 30 分かかります。[Deploying Virtual Appliance] ウィンドウの経過表示バーをチェックして、タスクのステータスをモニタします。
- ステップ 10** 導入タスクが完了したら、確認メッセージ ボックスで [Close] をクリックします。  
導入した仮想アプライアンスが、vSphere クライアントの左側のペインの、ホストの下に表示されます。  
次のプロセスの一部として、「[Prime Collaboration Assurance の仮想アプライアンスの設定](#)」(P.13) の手順に従います。

---

## Prime Collaboration Assurance の仮想アプライアンスの設定

Prime Collaboration Assurance OVA の導入後、仮想アプライアンスを設定する必要があります。

仮想アプライアンスを設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 仮想アプライアンスを右クリックし、[Power] > [Power On] を選択して仮想マシンの電源をオンにします。
- ステップ 2** 仮想アプライアンス コンソールで、ローカルホスト ログインプロンプトに対して setup と入力します。
- ステップ 3** コンソール プロンプトで、要求されたパラメータを入力します。各パラメータを入力して Enter を押すと、その次のパラメータが表示されます。仮想マシンが再起動します。



(注) [Time zone]: UI に表示されるタイムスタンプはサーバ時刻です。デフォルトでは、設定されたタイムゾーンは UTC です。サポートされている時間帯の一覧については、『[Supported Timezones for Prime Collaboration](#)』を参照してください。統合モードでは、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のサーバで同じ時間帯を使用する必要があります。

- ステップ 4** インストールを終了した後（コンソールのログインプロンプトが表示されたら）、Prime Collaboration Assurance プロセスがコンソールに表示されるまで約 20 分待ってから、Prime Collaboration Assurance UI にログインします。
- ステップ 5** インストールを確認するために、Prime Collaboration Assurance サーバにログインします。『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』の「[Verifying the Prime Collaboration Assurance Installation](#)」の項を参照してください。



(注) Prime Collaboration Assurance サービスを停止および開始するには、admin としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
<hostname>/admin#application stop cpcm  
<hostname>/admin#application start cpcm  
start cpcm コマンドは実行するのに 10 ~ 15 分かかり、stop cpcm コマンドは約 10 分かかります。
```

---

## Prime Collaboration Provisioning のインストール

Prime Collaboration Provisioning のインストールには、「[Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの導入](#)」(P.14) および「[Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの設定](#)」(P.14) が含まれます。

ダウンロードした OVA に基づいて、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを次のようにインストールできます。

- 小中規模導入モデルの場合：Prime Collaboration Provisioning のインストールおよび設定のための、1 つの仮想マシンが必要です。これらの導入モデルの設定については、「[設定が簡単](#)」(P.14) を参照してください。

- 大規模および非常に大規模な導入モデルの場合 : Prime Collaboration Provisioning OVA をデータベース用とアプリケーション用に、個別の仮想マシンに設定する必要があります。アプリケーションの前にデータベースをインストールしてください。これらの導入モデルの設定については、「高度な設定」(P.15) を参照してください。

## Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの導入

「インストール要件」(P.6) および「システム要件」(P.7) に記載された要件が満たされていることを確認します。

Prime Collaboration Provisioning OVA を導入するには、次のように行います。

- 
- ステップ 1** VMware vSphere Client を起動します。
  - ステップ 2** [File] > [Deploy OVF Template] を選択します。
  - ステップ 3** [Deploy OVF Template] ウィンドウで、[Deploy from file] をクリックします。
  - ステップ 4** [Browse] をクリックし、Prime Collaboration Provisioning OVA (cpc-provisioning-9.0.0-21342-*<deployment mode>*.ova) ファイルを保存した場所に移動します。
  - ステップ 5** [Next] をクリックします。
  - ステップ 6** [OVF Template Details] ウィンドウで、製品名、バージョン、サイズなどを含む OVA ファイルの詳細を確認し、[Next] をクリックします。
  - ステップ 7** [Accept] をクリックして、エンドユーザーライセンス契約書を受け入れます。[Next] をクリックします。
  - ステップ 8** [Name and Location] ウィンドウで、導入するテンプレートの名前と場所を指定します。名前はインベントリ フォルダ内で一意である必要があり、最大 80 文字で構成できます。
  - ステップ 9** [Next] をクリックします。
  - ステップ 10** [Disk Format] ウィンドウで、仮想ディスクに保存するために [Thick provisioned format] を選択し、[Next] をクリックします。
  - ステップ 11** [Ready to Complete] ウィンドウのオプションを確認してから、[Finish] をクリックして導入を開始します。  
導入が完了するまでに約 30 分かかります。[Deploying Virtual Appliance] ウィンドウの経過表示バーをチェックして、タスクのステータスをモニタします。
  - ステップ 12** 導入タスクが完了したら、確認メッセージ ボックスで [Close] をクリックします。  
導入した仮想アプライアンスが、vSphere クライアントの左側のペインの、ホストの下に表示されます。  
次のプロセスの一部として、「Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの設定」(P.14) の手順に従います。
- 

## Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスの設定

Prime Collaboration Provisioning OVA の導入後、仮想アプライアンスを設定する必要があります。

ダウンロードした OVA に基づいて、Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスを次のように設定できます。

- 簡単な設定（「設定が簡単」(P.14) を参照）
- 高度な設定（「高度な設定」(P.15) を参照）

### 設定が簡単

小中規模導入モデル向けに、Prime Collaboration Provisioning OVA を設定できます。

仮想アプライアンスの簡単な設定は、次のように行います。

- 
- ステップ 1** 仮想アプライアンスを右クリックし、[Power] > [Power On] を選択して仮想マシンの電源をオンにします。



仮想アプライアンス コンソールが表示されます。

**ステップ 2** 仮想アプライアンス コンソールで、ローカルホスト ログイン プロンプトに対して `setup` と入力します。

**ステップ 3** コンソール プロンプトで、要求されたパラメータを入力します。[Installation Requirements] セクションを参照してください。各パラメータを入力して `Enter` を押すと、その次のパラメータが表示されます。仮想マシンが再起動します。



**(注)** [Time zone] : UI に表示されるタイムスタンプはサーバ時刻です。デフォルトでは、設定されたタイム ゾーンは UTC です。サポートされている時間帯の一覧については、『[Supported Timezones for Prime Collaboration](#)』を参照してください。統合モードでは、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のサーバで同じ時間帯を使用する必要があります。

**ステップ 4** インストールを終了した後（コンソールのログイン プロンプトが表示されたら）、Prime Collaboration Provisioning プロセスがコンソールに表示されるまで約 10 分待ってから、Prime Collaboration Provisioning UI にログインします。

**ステップ 5** インストールを確認するために、Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』の「Verifying the Prime Collaboration Provisioning Installation」の項を参照してください。



**(注)** Prime Collaboration Provisioning サービスを停止および開始するには、`admin` としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
<hostname>/admin#application stop cpcm
```

```
<hostname>/admin#application start cpcm
```

これらのコマンドは、実行を完了するまで約 5 分かかります。

## 高度な設定

大規模および非常に大規模な導入モデル向けに、Prime Collaboration Provisioning OVA を設定できます。

仮想アプライアンスの高度な設定は、次のように行います。

**ステップ 1** 仮想アプライアンスを右クリックし、[Power] > [Power On] を選択して仮想マシンの電源をオンにします。

**ステップ 2** 仮想アプライアンス コンソールで、ローカルホスト ログイン プロンプトに対して `setup` と入力します。

**ステップ 3** コンソール プロンプトで、要求されたパラメータを入力します。[Installation Requirements] セクションを参照してください。

各パラメータを入力して `Enter` を押すと、その次のパラメータが表示されます。



**(注)** [Time zone] : UI に表示されるタイムスタンプはサーバ時刻です。デフォルトでは、設定されたタイム ゾーンは UTC です。サポートされている時間帯の一覧については、『[Supported Timezones for Prime Collaboration](#)』を参照してください。統合モードでは、Prime Collaboration Assurance および Prime Collaboration Provisioning のサーバで同じ時間帯を使用する必要があります。

**ステップ 4** 大規模または非常に大規模な導入モデル（電話機が 10000 台を超える）をダウンロードした場合は、設定するサーバのタイプを入力するように求められます。

— アプリケーション サーバを設定する前に、データベース サーバを設定する必要があります。

a. オプション 1 を選択して、現在のサーバをデータベース サーバとして設定します。

b. 次に導入されるアプリケーション サーバの IP アドレスを入力します。  
仮想マシンが再起動します。

- 次に、アプリケーション サーバを設定します。
  - a. アプリケーション サーバを導入します。「[Prime Collaboration Provisioning の仮想プライアンスの導入](#) (P.14) を参照してください。
  - b. ステップ 1 ~ 3 に従って、アプリケーション サーバを設定します。
  - c. オプション 2 を選択して、現在のサーバをアプリケーション サーバとして設定します。
  - d. プロンプトが表示されたら、設定済みデータベース サーバの IP アドレスを入力します。仮想マシンが再起動します。

**ステップ 5** インストールを終了した後（コンソールのログイン プロンプトが表示されたら）、Prime Collaboration Provisioning プロセスがコンソールに表示されるまで約 10 分待ってから、Prime Collaboration Provisioning UI にログインします。

**ステップ 6** インストールを確認するために、Prime Collaboration Provisioning サーバにログインします。『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』の「[Verifying the Prime Collaboration Provisioning Installation](#)」の項を参照してください。



---

**(注)** Prime Collaboration Provisioning サービスを停止および開始するには、`admin` としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
<hostname>/admin#application stop cpcm  
<hostname>/admin#application start cpcm
```

これらのコマンドは、実行を完了するまで約 5 分かかります。

---

## 6 使用する前に

クライアント ブラウザを使用して Prime Collaboration を起動できます。

Prime Collaboration アプリケーションにログインするには、次のように行います。

**ステップ 1** マシンからブラウザ セッションを開きます。サポートされるブラウザについては、「[システム要件](#)」(P.7) を参照してください。

統合モードでは、Prime Collaboration Assurance の IP アドレスを指定します。Prime Collaboration Provisioning アプリケーションの IP アドレスを指定すると、Prime Collaboration Assurance アプリケーションにリダイレクトされます。

ただし、スタンドアロン モードの場合は、起動する UI に基づいて Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning アプリケーションのいずれかの IP アドレスを指定します。

**ステップ 2** 次のいずれかを入力します。

- `http://IP Address`
- `https://IP Address`



---

**(注)**

- **Prime Collaboration Assurance** では、**HTTPS** がデフォルトでイネーブルになっており、**Prime Collaboration Provisioning** では、**HTTP** がデフォルトでイネーブルになっています。Prime Collaboration Provisioning で **HTTPS** をイネーブルにする必要がある場合は、Prime Collaboration Provisioning OVA にパッケージされている OpenSSL パッケージを設定します。「[Prime Collaboration Provisioning での SSL のイネーブル化](#)」(P.20) を参照してください。
- Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning サーバの IP アドレスまたはホスト名を使用できます。DNS に設定済みの場合は、ホスト名を使用することを推奨します。

- CLI は SSH を介してのみサポートされます。telnet はサポートされません。Prime Collaboration Assurance に使用されるポートは 26 で、Prime Collaboration Provisioning では 22 です。
- 

使用しているブラウザに応じて、次のいずれかのウィンドウが表示されます。

- Windows Internet Explorer の場合は、[Certificate Error: Navigation Blocked] ウィンドウが表示されます。
- Mozilla Firefox の場合は、[Untrusted Connection] ウィンドウが表示されます。

これらのウィンドウが表示されるのは、Prime Collaboration が自己署名証明書を使用しているためです。

**ステップ 3** SSL 証明書の警告を削除します。『[Troubleshooting Cisco Prime Collaboration](#)』の「Removing SSL Certificate Warning」を参照してください。

Prime Collaboration のログイン ページが表示されます。

**ステップ 4** Prime Collaboration のログイン ページで、設定中に指定したクレデンシャルと同じものを使用して *globaladmin* としてログインする必要があります。

ダッシュボードのデータは、その後の表に示されるタスクを実行した後に入力されます。

---

## Prime Collaboration Assurance を使用する前に

Prime Collaboration Assurance をインストールした後、次の表に示すタスクを実行する必要があります。

	タスクと説明	Prime Collaboration Assurance アプリケーションのナビゲーション	参照先
ステップ1	新しいライセンス ファイルを追加します。 製品を評価中の場合、この手順は任意です。	[Administration] > [License Management]	[License Management]
ステップ2	ユーザおよびロールを管理します。 新規ユーザを追加します。	[Administration] > [User Management]	[User Management]
ステップ3	クレデンシャルを定義します。 Prime Collaboration でデバイスを管理するために必要なデバイス クレデンシャルを入力します。詳細については、『 <a href="#">Setting up Devices for Prime Collaboration</a> 』を参照してください。	[Operate] > [Device Work Center] > [Manage Credentials]	[Managing Device Credentials]
ステップ4	<ul style="list-style-type: none"> <li>CTS-Manager を検出します。</li> <li>Cisco TMS を検出します。</li> <li>CUCM を検出します。</li> <li>VCS を検出します。</li> </ul> <p>CTS-Manager と一緒に、Cisco Unified CM、Cisco TelePresence Multipoint Switch、Cisco TelePresence System、デフォルト ゲートウェイ、およびスイッチが検出されます。</p> <p>Cisco TMS と一緒に Cisco VCS、Cisco MCU、Cisco Profile および Codec、デフォルト ゲートウェイ、ならびにスイッチが検出されます。</p> <p>Cisco TelePresence Conductor は、CTS-Manager/TMS から自動検出されません。Cisco TelePresence Conductor は、個別に検出する必要があります。</p>	[Operate] > [Device Work Center] > [Discover Device]	[Discovering Devices]
ステップ5	インベントリを確認します。 検出されたすべてのデバイスが [Managed] の状態にあるかどうかを確認します。その他の状態のデバイスが存在する場合は、[Job Management] ページ ([Administration] > [Job Management]) で検出ジョブの詳細を確認してください。	[Operate] > [Device Work Center] > [Update Inventory]	[Managing Inventory]

	Prime Collaboration Assurance アプリケーションのナビゲーション	参照先
<b>ステップ6</b> タスクと説明 セッションのインポート セッションを監視するために、ビデオ コラボレーションセッションを CTS-Manager、Cisco TMS、および Cisco TelePresence Multipoint Switch からインポートします。 CTS-Manager、Cisco TMS、および Cisco TelePresence Multipoint Switch からセッションを定期的にインポートするには、[Operate] > [Diagnose] > [Session Diagnostics] > [Import Sessions] を使用して、ビジネス ニーズに基づいてポーリング間隔を定義します。	[Operate] > [Diagnose] > [Session Diagnostics]	<a href="#">「Monitoring Sessions」</a>
<b>ステップ7</b> タスクと説明 セッションを確認します。 すべてのセッション詳細が CTS-Manager、Cisco TMS、および Cisco TelePresence Multipoint Switch からインポートされているかどうかを確認します。 Prime Collaboration は 5 日分のスケジュール済みセッションのデータを収集します（前日、当日および今後 3 日）。	[Operate] > [Diagnose] > [Session Diagnostics]	<a href="#">「Monitoring Sessions」</a>

## Prime Collaboration Provisioning を使用する前に

Prime Collaboration Provisioning をインストールした後、次の表に示すタスクを実行する必要があります。

	Prime Collaboration Provisioning アプリケーションのナビゲーション	参照先
<b>ステップ1</b> タスクと説明 新しいライセンス ファイルを登録します。 製品を評価中の場合、この手順は任意です。	<ol style="list-style-type: none"> <li>sftp を介して、root としてログインします。</li> <li>Provisioning サーバの opt/cupm/license ディレクトリにライセンス ファイルをコピーします。            システムによって、ライセンス ファイルが有効であるかどうかを確認され、ライセンスがアップデートされます。アップデートされたライセンス情報が [License Status Information] ページ ([Administration] &gt; [License Management]) に表示されます。            数分たってもライセンス ステータスが更新されない場合は、[License Management] ページ ([Administration] &gt; [System Configuration] &gt; [License Management]) を選択 にアクセスし、[Perform Audit] をクリックします。ライセンス ステータスは、[License Management] ページ ([Administration] &gt; [License Management]) で更新されます。</li> </ol>	<a href="#">「Setting Up the Server」</a>

	Prime Collaboration Provisioning アプリケーションのナビゲーション	参照先
ステップ2	コール プロセッサとメッセージ プロセッサを追加、設定、および同期します。	[Design] > [Set Up Devices] > [Devices Setup] 「Managing Devices」
ステップ3	ドメインの導入を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ドメインを作成し、コールとメッセージ プロセッサを割り当てる</li> <li>サービス エリアを作成する</li> <li>ルールを設定する</li> <li>ドメインを同期する</li> </ul>	[Design] > [Set Up Deployment] 「Managing Domains and Service Areas」
ステップ4	Cisco UCM を設定するためにテンプレートを作成して導入するか、[Infrastructure Configuration] を実行します。	[Design] > [Set Up Deployment] > [Provisioning Template]、または [Deploy] > [Infrastructure Configuration] 「Infrastructure Configuration」
ステップ5	加入者タイプをサービス エリアに割り当てます。	[Deploy] > [Subscriber Management] > [Add Subscribers] 「Managing Subscribers and Users」
ステップ6	新規ユーザを追加します。	[Administration] > [User Management] 「Managing Subscribers and Users」
ステップ7	加入者サービスをプロビジョニングします。	[Deploy] > [Order Management] 「Managing Orders」



**(注)** インストール後に、Prime Collaboration Assurance UI を使用して Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを統合できます。Prime Collaboration Provisioning を Prime Collaboration Assurance と統合する方法については、『[Cisco Prime Collaboration 9.0 Administration Guide](#)』の「**Integrating Prime Collaboration Servers**」の章を参照してください。

## [System Setup] および [Manage Network] へのクイック アクセス

Prime Collaboration のランディング ページとともに表示されるポップ アップの [System Setup] と [Manage Network] の下に一覧表示されているリンクを任意でクリックして、Prime Collaboration サーバの初期設定を実行できます。

### ユーザ インターフェイス

- スタンドアロン アプリケーションとして Prime Collaboration Assurance をインストールした場合は、[Home]、[Operate]、[Report]、および [Administration] のタブが UI に表示されます。
- スタンドアロン アプリケーションとして Prime Collaboration Provisioning をインストールした場合は、[Home]、[Design]、[Deploy]、[Reports]、および [Administration] のタブが UI に表示されます。

## Prime Collaboration Provisioning での SSL のイネーブル化

OpenSSL をイネーブルにする前に、Prime Collaboration Provisioning を Prime Collaboration Assurance から分離します。



## OpenSSL のイネーブル化と証明書の生成

- ステップ 1** OpenSSL0.9.8s-PC-Linux\_64\_bit.zip を Cisco.com からダウンロードして、ローカル マシンの任意のフォルダに zip ファイルを抽出します。
- ステップ 2** **bin**、**lib**、**modules** のフォルダのバックアップを作成します。すでに存在する場合は、ssl フォルダをバックアップする必要があります。
- ステップ 3** Provisioning サーバに root ユーザとしてログインし、次の（抽出した）フォルダを /opt/cupm/httpd にコピーします。
- bin/
  - lib/
  - modules/
  - ssl/



**(注)** ファイルをコピーしているときに既存のファイルを上書きするように要求された場合は、[Yes to All] を選択します。SSH ファイル転送を介してファイルをコピーするときは、[Autoselect] 形式を選択していることを確認してください。

- ステップ 4** 新しい lib ファイルから（オペレーティングシステムのライブラリ ファイルに）リンクを次のように作成します。

```
ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libssl.so.0.9.8 /lib64
ln -s /opt/cupm/httpd/lib/libcrypto.so.0.9.8 /lib64
```

- ステップ 5** /opt/cupm/httpd/bin ディレクトリに移動し、次のアクセス権限のコマンドを実行します。

```
chmod 777 openssl
```

- ステップ 6** 次のコマンドを実行してキーを作成します。

```
./openssl genrsa -out /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key 1024
```

- ステップ 7** 次のコマンドを実行して SSL 認証を作成します。

```
./openssl req -new -key /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key -x509 -out /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt -days 365
```

ここで、「mycorpcom.crt」は証明書の名前で、「mycorp.com.key」はキーの名前です。

キーおよび証明書のファイルが opt/cupm/httpd フォルダに作成されます。

出力例：

- Country Name (2 letter code) [AU]:US
- State or Province Name (full name) [Some-State]:CA
- Locality Name (eg, city)[ ]:CA
- Organization Name (eg, company) [Internet Widgits Pty Ltd]:mycorp, LLC
- Organizational Unit Name (eg, section)[ ]:Sales
- Common Name (eg, YOUR name)[ ]:
- Email Address [ ]:you@mycorp.com

- ステップ 8** /opt/cupm/httpd/conf/ssl.conf ファイルの次の行を更新して、キー ファイルと証明書をマッピングします。

- SSLCertificateFile conf/server.crt を SSLCertificateFile /opt/cupm/httpd/mycorpcom.crt に置き換えます。
- SSLCertificateKeyFile conf/server.key を SSLCertificateKeyFile /opt/cupm/httpd/mycorp.com.key に置き換えます。

- ステップ 9** Apache サーバを設定します（「[Apache サーバの設定](#)」（P.22）を参照してください）。

## Apache サーバの設定

**ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムでは、`/opt/cupm/httpd/conf` の `httpd.conf` ファイルのバックアップを作成します。

**ステップ 2** `httpd.conf` ファイルで、vi エディタを使用して次のタグのみ（タグで囲まれている内容を除く）をコメント化します。

```
#<IfModule mod_ssl.c>
#</IfModule>
```

**ステップ 3** `ssl.conf` ファイルで、次のタグのみ（タグで囲まれている内容を除く）をアンコメントします。デフォルトの SSL ポートは 443 です。

```
<IfDefine SSL>
</IfDefine>
```

次の行が `ssl.conf` ファイル内にあることを確認してください。

- Listen 443
- <VirtualHost \_default\_:443>
- ServerName host.your-domain.com:443

**ステップ 4** 次のコマンドを使用して Apache サーバを再起動します。

```
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k stop
/opt/cupm/httpd/bin# ./apachectl -k start -DSSL
```



**(注)**

- Prime Collaboration Provisioning アプリケーションを起動するときに `https` をデフォルトでイネーブルにするには、「`/opt/cupm/cupm-full-service.sh`」ファイルと「`opt/cupm/cupm-app-service.sh`」ファイルの次の行を変更します。その後、Prime Collaboration Provisioning サービスを再起動します。

```
$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start & から $PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k start -DSSL &
$PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop & から $PM_BASE/httpd/bin/apachectl -k stop -DSSL &
```

- ポート 80 または 443 がイネーブル（リッスンしている）かどうかを、SSH コンソールから次のコマンドを使用して確認します。

```
#lsof -i :443
#lsof -i :80
```

- `ssl.conf` ファイルでポート 443 を設定することを推奨します。ポート番号を変更する必要がある場合は、`ssl.conf` ファイルで、「Listen 443」を必要なポートに変更する必要があります。
- HTTPS だけを排他的に実行する場合は、`/opt/cupm/httpd/conf/httpd.conf` ファイルの「Listen 80」をコメントアウトして HTTP をディセーブルにしてから、Apache サーバを再起動する必要があります。

## SSL ポートの変更

スタンドアロンの Prime Collaboration Provisioning アプリケーションが共存システムにインストールされている場合、アプリケーションのいずれかによって SSL に使用されているポートを変更する必要があります。

Prime Collaboration Provisioning によって SSL に使用されるポートを変更するには、次のように行います。

**ステップ 1** Prime Collaboration Provisioning システムで、`ssl.conf` ファイルを開きます (`/opt/cupm/httpd/conf`)。

**ステップ 2** 次の行のポート番号を変更します。

### Listen 443

VirtualHost\_default\_:443

**ステップ 3** 変更内容を保存して、ファイルを閉じます。

**ステップ 4** Apache サーバを再起動します。



**(注)** ポート番号を変更したら、Prime Collaboration Provisioning アプリケーションにアクセスするときに、新しいポート番号を入力する必要があります (たとえば、<https://hostname:443>)。

## 7 Prime Collaboration のアンインストール

アンインストール プロセスは、Prime Collaboration Assurance と Prime Collaboration Provisioning の両方に当てはまります。

**ステップ 1** vSphere Client にログインし、アンインストールする仮想アプライアンスを実行している ESXi サーバに接続します。

**ステップ 2** Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスを右クリックして、[Power] > [Shut Down Guest] を選択します (または [Power Off] を選択)。

**ステップ 3** Prime Collaboration Assurance または Prime Collaboration Provisioning の仮想アプライアンスを右クリックして、[Confirm Delete] ウィンドウの [Delete from disk] を選択します。

## 8 関連資料

このマニュアルは、Cisco Prime Collaboration 9.0 向けの複数の短いガイドの 1 つです。ユーザ管理、デバイス管理、音声のプロビジョニング、ネットワーク モニタリング、障害管理などの Prime Collaboration のその他のタスクを実行するには、「[Cisco Prime Collaboration 9.0 Documentation Overview](#)」にあるすべての利用可能なマニュアルのリストを参照してください。

また、**Search this Category** 検索エンジン

([http://www.cisco.com/en/US/products/ps12363/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps12363/tsd_products_support_series_home.html)) を使用して、特定の Prime Collaboration 関連情報を検索できます。

## 9 マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は Really Simple Syndication (RSS) フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>